

災害弱者の目線で

熊本地震の教訓を生かそう。1日、徳島県内で行われた県総合防災訓練では、高齢者や障害者らを支援

県総合防災訓練

福祉避難所運営を実践

する「福祉避難所」の運営体験もあった。4月の熊本地震では、福祉避難所に大勢の被災者が押し寄せ、本来の機能が十分に果たせなかったケースも。参加者は大規模災害時の適切な運営に向け、真剣な表情で取り組んだ。

(3面参照)

美波町西の地の特別
養護老人ホーム・ねん
りんでは、職員や自主
防災組織「西の地防災

「きずな会」のメンバー
ら40人が福祉避難所の
開設手順を学んだ。

強度を確認。敷きマッ
トを作り、寝心地や
トや間仕切りなども設
け、避難所の様子を再

現した。ねんりんの高
橋貴子事務長(45)は
「職員だけの運営は
難しい。住民と連携す

ることで、大規模災害
時に円滑に対応できる
ようにしたい」と話し
ていた。

阿南市福井町の特別
養護老人ホーム・緑風
会ルネッサンスでは、
職員や住民ら約120
人が参加。高齢者、障
害者、妊婦を想定した
被災者役の5人に職員
が病気や障害の有無な
どに関する聞き取りを
行い、福祉避難所や病
院などに振り分ける一
連の流れを実践した。

緑風会ルネッサンス
の岸拓司施設長(41)は
「受け入れを迅速に行
うため、質問内容の簡
略化を考えたい」と振
り返った。(千里達
彦、上田隆太郎、矢田
諭史)



段ボール箱を使った簡易ベッド作りに取り組む参加者—1日午前10時40分、美波町の特別養護老人ホームねんりん(千里達彦撮影)